「ながみねファミリーセンター３０周年によせて」

埜　雄二

ながみねファミリーセンター３０周年おめでとうございます。ながみねファミリーセンター（開設当時ＹＭＣＡながみねセンター）は熊本市東部地区において地域に必要とされ、皆様に喜ばれるＹＭＣＡであり続けてきていると感じています。

私自身は、１９９２年３月～１９９４年７月、１９９７年２月～２０００年３月、２００３年１０月～２００９年３月の３期。計１０年余り勤務の機会が与えられました。初めて勤務した時代はちょうどボランティア運動の推進に取り組み始めた時期でした。熊本ＹＭＣＡ全体が中期計画“もう一つの生き方実践”に着手し始めた頃ですが、ながみねではボランティアの養成講座を開催し全６回のコースを前期・後期で開講しました。専門家の方々の協力により、視覚障がい体験、身体障がい（四肢不自由）体験、介助体験の講座、車いすでのタウンウォッチング（市電でＧＯ！）などなどシリーズで講座を実施しました。この取り組みは、ＹＭＣＡが大切にしている“for All”の精神であり、ノーマライゼーションの考え方を学び体験する機会で先駆的な活動であったと思っています。担当を任されたときは苦慮したこともありましたが、運営委員をはじめとする専門ボランティアの方々に講師として関わっていただき助けていただきました。私は、この福祉分野に関する取り組みは大変重要なことであり、熊本ＹＭＣＡとして欠かすことのできないプログラムであると感じています。ながみねでは開設当時から、あすなろ（知的障がい傾向のある方の水泳教室）クラスや身体障がい者福祉センターの方々の水泳教室、またスペシャルオリンピックス（ＳＯ）への協力などに積極的に展開していました。まさに、熊本ＹＭＣＡの使命（1995 年制定で当時未制定）の共に生きる社会の実現への取り組みだと思っています。

中期計画のもう一つの取り組みとして、“わんぱく大学『地球クラブ』”の発足は、たいへんユニークな取り組みであったと思います。テーマは、環境・ボランティア・野外活動。将来日本の未来を担う子供たちを育てよう!を合言葉にクラブの募集を行いました。当時熊本 YMCA には、野外活動を行うインディアンズクラブはありましたが、それとは違った新しいテーマと目的を掲げての２番目の野外活動クラブという意識でした。30 名を超える子どもたちが集まり、1992 年 9 月から第１期の活動を開始しました。空き缶拾いタウンウォッチング&空き缶ロボット作りが第１回目の活動、リサイクル(資源の再利用)、環境保全（地域清掃）、そして野外遊び(伝承遊び)でしたが、グループ活動を主体に楽しく学び元気に遊ぶクラブの発足となりました。その後は、南阿蘇水源巡り(水質調査)、車いす体験タウンウォッチング、海の１泊キャンプ、牛乳パックリサイクル

ハガキ作りなど、毎月１回、特定領域にこだわらず様々な分野で体験・経験の機会を通じて学ぶことができたと思います。その後 20 数年続き同窓会なども開催されましたが、数年前に幕を閉じました。また、1992 年１１月に開催した熊本ＹＭＣＡで初めてのチャリティ水泳リレーマラソンはたいへん思い出深く心に残っています。50m をリレーでつなぎ４２．１９５Ｋｍを目指したイベントは、14 時間 48 分を要しましたが、テレビ報道も数社取材に来るなどたいへん話題になりました。国際協力青少年育成年末募金活動のイベントは今ではどの YMCA も当たり前になっていますが、このプログラムが先駆けになっていることを知っている人は少ないのではないでしょうか。
私自身、若き日に様々なチャレンジと経験の機会を与えられたことは、その後の YMCA での働きの基礎となり育てられた時代と感じています。
1997 年 2 月に館長という立場で再び、ながみね勤務となりましたが、けんぐんセンターとの兼務で 2 つのプログラムを開始するというミッションがありました。ひとつは、けんぐんセンターでの未就園児保育プレスクールの開設。もうひとつがながみねでの、学習障がい(LD)児・者支援プログラムのパイスロットスタートでした。LD 児支援プログラムは、運動遊び(感覚統合)を主体にした体操、グループ活動(ソーシャルスキル)・技術習得を目的とした水泳教室。そして体験と社会性を重視した野外活動をスタートしました。クラスの名前は LD 児の可能性を秘めた才能を引き出し伸ばしていくことを願って、Liberty　Dolphin’s(自由なイルカたち)と名付けました。このクラス開講には、長崎 YMCA から出向してきたスタッフの吉田伸吾さんに、また当時の運営委員長であった島村保夫さんにご尽力いだきました。プログラムスタートに際しては、くまもと発達支援親の会(当時は LD 児・者支援親の会)『めだか』の皆様にＹＭＣＡがイエス・キリストの示された愛（隣人愛）を実践する団体であること弱い立場の人々に寄り添う活動を続けていることなど、徐々に団体の本質を理解していただくことで参加へと導くこととなりました。このプログラムも今年度２０周年を迎えました。
　２回目に館長として勤務したときに特に印象深く残っていることは、２００４年４月強力なパートナーである熊本ひがしワイズメンズクラブが設立されたこと。クラブの支援で地域の母子父子家庭のファミリーキャンプを春と秋に開催したこと。様々な活動において心強いパートナーとして支援を頂いたことは感謝するばかりです。
更には、２００５年１０月１７日午前１０時４６分。成人会員の方のプールでの心肺停止という事故が発生し医療従事者かいない中、当時携わっていた職員・スタッフの見事な連携でＡＥＤを使用した人命救助活動により後遺症もなく救命できたこと。一般市民のＡＥＤによる救命は全国でもほぼ初めてのケースであり、熊本市消防局長から団体表彰を受けました。しかしこのことは、良い意味でも悪い意味でも究明に携わった皆さんが心を揺さぶられた出来事でもあり、命を守るという責任を感じた出来事でした。

ながみねファミリーセンターの３０年は、すべて神様の御手により導かれたことと感じています。長年携わることができましたことを感謝しつつ、これからも熊本の地でなくてはならないＹＭＣＡであり続けること祈念いたします。